

東北大鬼城句会報

於： 学士会館

<第9回>句会 11月24日(金)

ばった・達磨忌・大根引・柿 冬構

・当季雑詠を含む5句

村上谿聲 選 ◎特選 ◇佳作

◎大根引く大地あらがふこともなく 如 雨

※大根引きは全身をかけてやっと成功することもあるが、肥えた土地で簡単な場合もありそうだ。

◎元禄の科白悲しき冬芝居 俊 知

※この冬芝居は冬十二月の顔見世の流れを指しているのであろう。人気のある芝居は科白が決め手のようである。

◎冬構疎林の中の山家かな 修 人

※営々と山畑を耕して代々を生き抜いてきた家の冬構の様子が想像される。

◎嶺の雪仰ぎ見急ぐ冬構 興 山

※「嶺の雪」が気になることはなるが、(季重ね)、冬構の動機としてはしっかりと詠まれた作品である。

◎冬構十戸の村の息づかひ 蓮 田 池

※牧歌的な雰囲気に残る「ふるさと日本」の、冬に備える雰囲気を「息づかい」とは見事な表現です。

◎身を晒すばったの羽化ははばかり 貞 風

※自然の情景や虫の営みをよく観察して、驚きとか不思議とかの心の動きを一句にしたてあげた。

私はバッタの羽化するところを見たことがないが、面白い出会いである。

◎玉座より飛蝗とびたつ草の国 隆 一

※上五の玉座との措辞が下五の草の国とうまく連動している。

◇岩風呂の一灯点り森冷ゆる 如 雨

◇柿の実のみな残りをり昼雨戸 如 雨

◇大根を引く影長し粗筵 如 雨

◇城跡に日のまったしやばった飛ぶ 修 人

◇護摩焚ける薬王院の山紅葉 修 人

◇大きな手の「考える人」達磨の忌 修 人

◇山小屋の冬眠告ぐる釘の音 弁 慶

◇雨水の石打つ音や達磨の忌 俊 知

◇山茶花を簪(かざし)にしたり小唄塚 俊 知

◇柿苗鎌倉古道暮れ残る 蓮 田 池

◇消息のなきことがよし柿をむく 蓮 田 池

◇ばった追ふ子らの顔面(おもて)に夕日映え 仲 安

<互選高点句・特選句より>

4点 冬構十戸の村の息づかひ 蓮 田 池

4点 岩風呂の一灯点り森冷ゆる 如 雨

3点 柿の実のみな残りをり昼雨戸 如 雨

3点 達磨忌や俄信徒の普茶料理 谿 聲

1点 願ひごと達磨とともに消えさり 仲 安

村上谿聲作

毛の国は風を旨とし冬構
柿剥いて無聊をかこつ雨夜かな